

## 市街地整備対策特別委員会行政視察（概要）

### 1 視察日

令和元年10月23日（水）～24日（木）

### 2 視察項目（視察都市）

- ・ 福井駅西口中央地区第一種市街地再開発事業について（福井県福井市）
- ・ 片町A地区第一種市街地再開発事業について（石川県金沢市）

### 3 参加委員

委員長：青木順子、副委員長：萩原 佳  
委員：福丸孝之、安孫子浩子、河本光宏

### 4 調査概要

福井市は、「にぎわい交流拠点の形成」をスローガンに、平成18年に再開発準備組合を設立し、福井駅周辺土地地区画整理事業による公共整備と街区の再編にあわせた本地区の整備を始めた。この再開発事業で、福井の新たなランドマークとなるビルとして竣工された「ハピリン」は、魅力ある商業や文化の拠点、まちなか居住を推進する質の高い住宅を整備し、商業ばかりでなく、観光客等のための「おもてなしの拠点」、地域内の人のための「生活の拠点」として、中心市街地の「にぎわい軸」の要として期待されている。

金沢市の片町地区は、商業集積の中核を担う地区でありながら、建物の老朽化や旧耐震の建物が問題となり、建てかえの機運が高まった。この地区では、建物の容積率や建蔽率をダウンサイジングすることで、敷地内への広場の創出を図るとともに、建物を雁行型とすることで、3つの広場の設置が可能となった。また、壁面後退の一部を国道管理者との協定により、歩道として利用することで、既存歩道の一部を車道化、バスベイ化して整備し、交通渋滞の緩和や公共交通機能の改善を官民連携で行っている。



### 5 委員長所感

福井市の取り組みでは、ハピリンからつながるにぎわい軸、駅前広場からつながる都市軸、歴史・環境軸と駅前から周辺市街地への動線は、魅力的で一体的な空間となっている。市の玄関口である駅前開発は、市の魅力を最大限発信できる取り組みとなるように、行政の役割の重要性を改めて感じた。

金沢市の取り組みでは、まちづくりの目指すべき方向性を明確にした上で、地権者や地域住民と思いを共有しながらまちづくりを進めており、施設に繋がる都心軸からの動線については、緑やおしゃれな舗道を配し、歩きたくなる工夫がされているなど、まちづくりのあり方について大いに参考になった。